



鹿児島県言語聴覚士会ニュース

今号目次

巻頭言

1ページ

大会参加記

2-4ページ

新人紹介

5-6ページ

事務局通信

7-10ページ

地域局

(始良霧島地区)

11ページ

社会局

(公共事業・保険)

12ページ

社会局

(地域リハ・広域)

13ページ

社会局

(地域リハ・市内)

14ページ

社会局

(広報局)

15ページ

学術局

(新人教育)

16ページ

学術局

(生涯学習)

17ページ

学術局(成人)

18ページ

学術局(小児)

19ページ

財務局

編集月誌

20ページ

巻頭言 鹿児島県言語聴覚士会 災害対策部会 下南木 猛

今年の3月11日で、東北地方を中心に甚大な被害をもたらした東日本大震災から12年の歳月が経ちました。発災当日、私は15時に来られた外来患者から「東北で大変な地震が起きた!」と知らされ、急いでニュースを確認した時の事を今でも鮮明に覚えています。多くの方が連日メディアを通して、ただ見守ることしかできなかったと思います。それから5年後の2016年に県士会を通じて災害研修を受講する機会をいただき、その3か月後に発災した熊本地震では、避難所での支援活動や本部運営などに携わりました。当時を振り返ると、被災者に声を掛けることや情報を整理することだけで精一杯であり、現地の方々のためになっていたのかと思いつくこともあります。この経験をもとに私が受嘱した日本言語聴覚士協会・災害対策部では、現在ST向けの災害研修の企画準備を進めており、今後会員の皆様と情報共有ができればと考えています。

鹿児島県における災害リハビリテーション支援の組織としては、平成30年に鹿児島県災害リハビリテーション推進協議会(略称:鹿児島JRAT)が発足され、これまで定期的に研修会の開催や啓発活動といった人材育成や意見交換会などが行われています。また、鹿児島市で開催される桜島火山爆発総合防災訓練では、行政や自衛隊、他の職能団体も参加しており、様々な取り組みなどを知ることができます。

さて、私たちが住むこの鹿児島県で起こりうる災害として、どのようなことをイメージされますか。例えば、「豪雨や台風による水害」・「桜島の噴火」・「南海トラフ地震」などではないでしょうか。これまで幸いなことに当県ではJRAT活動を要するような災害は発生しておりませんが、災害は忘れた頃にやってくるといわれます。平時の備えとして皆様が住んでいる又は勤務している地域ではどのような災害が起こりうるのか考えることや、事前に街の災害対策を調べておくこと、職場ではどのような行動を取ればよいのかマニュアルの確認や作成に努めることで、個人としても災害の知識や地域支援活動への意識は高められると思います。

最後に、実際の災害リハビリテーションではSTとしてどんな活動ができるのか、と感じている方も多いと思います。しかし、地域の方々が日常生活に戻るための支援を行うことに関しては、普段の臨床業務と共通しています。時に専門的な支援、また裏方的な活動が必要になることもありますが、災害リハビリテーションへご興味がある方は、まずは前述した研修会や各市町村の災害訓練などにご参加いただき、有事に備え、組織として災害支援ができる準備を一緒に行っていきましょう。

日本
言語聴覚士
協会

第11回 九州地区学術集会 熊本大会

ことばと心をつなぐ



パネルディスカッション

& 大会参加記

公益社団法人鹿児島県済会
南風病院
樋渡健太郎

皆様こんにちは!!南風病院の樋渡健太郎です。2023年1月28日(土)、29日(日)、第11回 日本言語聴覚士協会 九州地区学術集会 熊本大会へ参加しました。今大会は新型コロナウイルスの感染拡大防止と参加者の安全のためWEBによる開催となりました。大会参加の感想と、パネルディスカッションで発表した地域リハビリテーション（以下、地域リハ）における言語聴覚士の役割など報告したいと思います。

本大会は「言語聴覚士が魅せる可能性の追求～これから我々が果たすべき役割～」をテーマに各種講演やスキルアップセミナー（重度嚥下障害に対する外科的治療、認知能力、機能性構音障害、パーキンソン病の発話障害）、訪問リハ、通所リハ、介護予防事業など地域リハ領域の先生方をお招きしたシンポジウム、失語症や小児の心理検査に関するワークショップなど、今知りたい専門分野だけではなく、地域包括ケアシステム構築に向けて、多職種連携のポイントや生活の場(地域)にも目を向けた充実した内容でした。さらに今回の九州学術集会では初めての取り組みとして完全WEB開催。これまでの現地開催では、セッションによっては会場の移動や座席の関係で1会場に留まる事も少なくありませんでしたが、本大会（WEB）では3会場をパソコンのクリック操作で自由に入室・退室でき、自身のスケジュールやペースに合わせた聴講ができ、もしかしたら子育て世代や勤務中のスキマ時間参加者にはメリットを感じた大会だったのではないのでしょうか。さらに大会終了から2週間後には、なんと！大半の講演がオンデマンド配信となり、参加費以上の満足度と心配りのある大会でした。



パネルディスカッション参加について（テーマ：魅せるST！地域リハビリテーションの担い手）

日本の人口の年齢別比率が劇的に変化して「超高齢化社会」となり、社会構造や体制が大きな分岐点を迎え、雇用、医療、福祉など、さまざまな分野に影響を与える2025年問題。鹿児島県においても、病床の機能分化及び連携の推進と、住まい、医療、介護、予防・生活支援を一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築が進められております。このシンポジウムのテーマでは「魅せるST!」では地域リハを実践する九州各地の代表者（パネリスト）が、これまでの活動報告と介護保険領域や地域リハ支援活動での課題と解決策、言語聴覚士の役割について発表されました。

鹿児島県言語聴覚士会の活動報告では、離島（種子島、中之島、喜界島）への専門職派遣事業の参加、介護予防事業（お達者クラブへの講師派遣）、介護予防地域ケア会議への参加、人材育成事業として初期研修（1回/年）開催と鹿児島県PT・OT・ST連絡協議会主催の推進リーダー研修（2回/年）開催について報告を行いました。

介護保険領域や地域リハ支援活動での課題と解決策では、鹿児島県や鹿児島市から地域リハ依頼増加に伴い、今年度より社会局 地域リハ（鹿児島市担当、広域担当）を新設したことで担当者が早急に対応できるようになっております。鹿児島市の介護予防事業協力者が今年度は5名でお達者クラブへの講師派遣を行っており、人材不足の状態です。解決策は見出せていない状況ですが、今年度より養成校教員が地域ケア会議の助言者として参加することとなり、学校では言語聴覚士の卵（学生）へ将来の地域リハの担い手として専門性や他職種連携、社会資源の活用など幅広い視点で考え行動する人材育成に期待したいところです。鹿児島県は、離島人口（149,620人）及び離島面積、有人離島数が28という全国でも有数の離島県です。言語聴覚士がいない離島もあり、医療機関が少ない地域や施設や設備、専門職の不足など社会資源も限られており、難聴や摂食嚥下など、支援者（介護職員、行政職員、家族）からの期待は高いです。しかし、専門職として我々は現地支援として赴きますが、船の移動などで2日間以上勤務先を離れる事もあり、職場の理解が必要になります。解決策としてオンラインを通して継続した取り組みを行う事や、頻回に離島に赴く事が難しい為、社会資源の活用として、難聴に問題がある場合には補聴器メーカーへ相談を行い、言語聴覚士は企業と行政との繋ぐ役割を担う（官民連携）のも一つだと思われます。



地域リハビリテーションにおける言語聴覚士の役割

地域リハにおける言語聴覚士の役割では、障がいや機能低下に目を向けるだけではなく、要支援者の出来ている事や出来る事、つまり、ストレングス、強みを見つけ、多職種と情報を共有する事が大切です。栄養・口腔・認知・健康面では専門としている職種が重なっている事もありますが、各専門職の助言では、これまで経験のない新たな支援方法も知る機会にもなる為、学びの場でもあります。離島のように言語聴覚士がいない地域では、地域の実情も踏まえた発言を行い、社会資源の発掘も考えることも大切だと思われます。このことは地域における医療の状況や社会資源を知る事で自身の臨床の幅が広がります。

各地の活動を牽引するパネリストたちの講話でも人材育成の難しさや、多職種連携、勤務先の協力などの問題が挙げられ、どの県も抱えている問題でもあり、今後の課題であることを知る事ができました。今回の発表では地域リハの魅力を伝え、地域リハは継続していくことにより大きな成果が得ていることをあらためて知る良い経験ができました。

最後に

今回の熊本大会の実行委員長はなんと・・・小田原 守さん。彼は私の母校の同級生(鹿児島医療技術専門学校)です。大会当日にその事実には驚き、数年前ぶりに画面越しで見た彼の姿や雰囲気は学生自体と変わらず、明るく、丁寧に、そして参加者への心配りの言葉掛けがされており、講師とのやりとりでも堂々と職務を全うされておりました。新型コロナウイルス感染対策として完全WEB開催という英断とWEB開催することでの当日の機材トラブルや参加者数など不安も多かったと思います。小田原さんを中心とした熊本県士会会員のチームワークの良さが、講演やスキルアップセミナー、シンポジウム、ワークショップなどこれまでの九州学術の中でも多くの企画が実現し、参加者にとっても非常に満足した大会になったのではないかと思います。同級生といえば、パネルディスカッション(魅せるST! 地域リハビリテーションの担い手)でも、沖縄県の大濱 貴之さん、宮崎県の橋口 智英さん、この二人も私の学生時代の同級生でこのセッションでも非常に盛り上がりました。卒業から約15年、お互い臨床を積み重ねて各県の県士会活動に参画、協力し、学会を通して彼らの成長に刺激を受け、感慨深い大会でもありました。

次回の九州学術集会は大分県で開催される予定です。この数年、新型コロナウイルスにより生活様式が変容しました。しかし、昨今の経済活動を踏まえ、行動制限は緩和され、これからは会場でのイベントの開催が増えることでしょう。もし大分大会がWEB開催だけでなく、現地開催もされるのであれば、学術的な知識を得ることはもちろんですが、地元の料理や文化に触れることで貴重な経験や思い出になり、普段のコミュニケーションにも活かされるかもしれません。これからも多くの県士会員が学術集会に参加される事を楽しみにしております。

新人紹介

医療法人博悠会 博悠会温泉病院

宮路 涼慎

私は令和4年3月に鹿児島医療技術専門学校を卒業し、現在は日置市の医療法人博悠会 温泉病院に勤務しております。(当院では実際に天然温泉を源泉掛け流しでご利用頂いています🔥)

当院病棟は療養病棟(30床)、介護医療院(120床)から構成されており、その他、短期入所療養介護(ショートステイ)、通所・訪問リハビリテーション等のサービス提供を行っております。当院には慢性期の患者様や重度難病をお持ちの患者様が多く入所されています。自分は特に療養病棟、介護医療院に入所中の脳神経疾患や呼吸器疾患をお持ちの方に携わらせていただいております。

当院リハビリテーション部はポートフォリオ等活用し、教育に注力しているだけでなく、部内での勉強会や発表の機会も多く、学会・研修等への参加・発表に積極的にスタッフ一人一人が自己研鑽に励んでおります。自分も多職種の先生方のお力添えを頂きながら来年予定している学会発表に向けて準備に取り組んでおります。

当院に入職してはや1年が経過しようとしています。思い返すと、まず最初の半年間はSTとしての職務や自己学習と並行して職場環境への順応や、書類関係等の事務的な作業も覚えていかなければならない中で、全く自分に余裕がない状況でした。ただ次の半年間で少し余裕が出てきた分、多職種の先生方への質問をよくするようになり、それからは、一層学びや考え方の幅が広がり、「すっきりした」と思う事が増え、最初の半年に比べ前向きになりました。

知識・技術ともに未熟ながら、今は確実に臨床家として前進している手応えを感じる事が出来ています。患者様との関わりの中で「失敗した」、「解決出来なかった」が当たり前ながら毎日あります。ただそう疑問に思っている事を前向きに捉え、それを「そのままにしない努力」を今後も継続していきたいと思います。

4月から臨床家2年目として知識・技術の蓄積はもちろん、広い視野で利用者様の治療に携わっていけるようになりたいです。100点満点でなくても、毎日自分の持てる100%を注ぎ、それが利用者様の快適な暮らしへの一助になればと思います。

今後ともよろしくお願い致します。



新人紹介

医療法人青仁会 池田病院

永田 堅也

私は令和4年3月に鹿児島第一医療リハビリ専門学校を卒業し、現在は鹿屋市にある医療法人青仁会池田病院に言語聴覚士として勤務しております。私は主に回復期のリハビリテーションに携わらせていただいています。当院は内科、整形外科、腎臓内科、脳神経内科、循環器内科、血液内科、消化器内科、肝臓内科、呼吸器内科、糖尿病内科、透析内科、放射線科、リハビリテーション科、リウマチ科、脳神経外科、乳腺外科、外科、歯科等の診療科を有しております。

入職当初は学生時代に得た知識や経験だけでは患者様の病態の把握やアセスメントなど対応できないことが多く、自分の未熟さを痛感しこのまま言語聴覚士としてやっていけるのか不安でいっぱいでした。また、担当させて頂いている患者様の予後予測や訓練プログラムの立案に悩み、自分だけでは解決できないことも多くありました。しかし、先輩方からのご指導や臨床経験を積み重ねていくことで日々の悩みを解決しつつ、少しずつではありますが自分の知識と結び付けていくことができるようになってきました。

臨床現場に出てからは特に他職種との情報共有の重要性を感じるようになりました。カンファレンスなどの情報共有の場ではうまく伝えられないこともありますが患者様の現在の状態を正確に伝えられるように励んでいきたいと思います。入職して約一年が経ちますがまだまだ不慣れな部分も多く、迷いながらリハビリテーションを実施している状況です。しかし、患者様から「ありがとう」の言葉を頂いた際には嬉しさと同時にもっと患者様に喜んで欲しいと言語聴覚士として働くやりがいを感じるようになりました。

2年目からは先輩方からのご指導を頂きつつ、自分が患者様の今後の生活をどのように考えているのかより詳しく他職種の方に伝えられるようになっていきたいと思います。また、質の高いリハビリテーションを提供出来るように研修会などに参加し自己研鑽に努めていきたいと思います



事務局通信

県士会ニュース 事務局

10月

- ・第12回杉浦地域医療振興賞公募に関して協議され継続審議となった。
- ・九州地区学術集会熊本大会演題投稿依頼に関して協議され継続審議となった。
- ・令和4年度 介護講座（鹿児島県介護実習普及センター依頼）について報告があった。
- ・令和4年度 保険者機能強化支援事業に関わる専門職アドバイザー派遣について報告があった。
- ・令和4年度 地域リハビリテーション活動支援推進のための人材育成事業 初期研修について報告があった。
- ・令和4年度 リハビリテーション専門職派遣事業について報告があった。
- ・お達者くらぶについて活動報告があった。
- ・研修会ホームページ掲載について報告があった。
- ・臨床に関する「お問い合わせ：の流れについて報告があった。
- ・令和4年度小児研修会の概要について協議され承認された。
- ・市民健康まつりについて報告があった。
- ・県士会公式LINE運用状況について報告があった。
- ・会費2年未納者について協議され退会となった。
- ・失語症支援者養成委員会について活動状況の報告があった。

11月（次ページまで）

- ・第12回杉浦地域医療振興賞公募に関して協議され推薦無しとなった。
- ・九州地区学術集会熊本大会演題投稿依頼に関して協議され県士会より2演題投稿することとなった。
- ・選挙管理委員会について協議され、小原病院に選挙管理委員会を置くこととした。
- ・令和4年度 介護講座（鹿児島県介護実習普及センター依頼）について報告があった。
- ・令和4年度 保険者機能強化支援事業に関わる専門職アドバイザー派遣について報告があった。
- ・令和4年度 リハビリテーション専門職派遣事業について報告があった。
- ・研修会ホームページ掲載について報告があった。

11月

- ・領域別質問応答者の選定について協議され継続審議となった。
- ・令和4年度小児研修会の概要について進捗状況が報告された。
- ・令和4年度下半期教育研修会について報告された。
- ・令和4年度下半期生涯学習基礎講座について報告された。
- ・市民健康まつりについて開催報告があった。
- ・失語・認知・高次脳機能部会主催研修会の開催概要について協議され承認された。
- ・北薩・大隅合同症例検討会について協議され承認された。
- ・会費2年未納者について協議され退会となった。
- ・災害対策部より研修会の報告があった。
- ・鹿児島訪問リハビリテーション研修会の報告があった。
- ・失語症支援者養成委員会について活動状況の報告があった。
- ・鹿児島県リハビリテーションフェスティバル概要について協議され承認された。
- ・秋期都道府県士会会長会議について報告があった。

12月（次ページまで）

- ・指宿市発達相談会への講師派遣に関するして協議され菊野病院に依頼することとした。
- ・日置市介護認定審査会委員について協議され川畑理事を推薦することとした。
- ・奄美大島地区介護認定審査会委員及び障害支援区分市町村審査会委員について協議され安田氏（名瀬徳洲会病院）を推薦することとした。
- ・令和4年度鹿児島県介護実習・普及センター運営協議会出席者について協議され樋渡氏に決定した。
- ・令和4年度 リハビリテーション専門職派遣事業について報告があった。
- ・お達者くらぶについて活動報告があった。
- ・研修会・求人ホームページ掲載について報告があった。
- ・領域別質問応答者が決定した。
- ・小児研修会進捗状況が報告された。
- ・小児研修会について会場および開催方式（ハイブリット）について承認された。
- ・全国協会学校教育担当者連絡協議会について報告があった。
- ・第22回新人教育研修会の進捗状況について報告された。

12月

- ・介護予防地域ケア会議専門職アドバイザー現地派遣事業（西之表市）について報告があった。
- ・令和4年度下半期生涯学習基礎講座の進捗状況について報告された。
- ・研修会に係る新型コロナウイルス感染症対策について案内内容変更が承認された。
- ・令和4年度 第3回市民健康まつり実行委員会・反省会の報告があった。
- ・失語・認知・高次脳機能部会主催研修会の進捗状況が報告された。なお、参加区分について協議され承認された。
- ・北薩・大隅地区合同 生涯学習プログラムポイント取得対象研修会の進捗状況が報告された。
- ・災害対策部より研修会参加の報告があった。
- ・鹿児島訪問リハ研究会にてステップアップ研修会の開催概要が報告された。
- ・失語症支援者養成委員会について活動状況の報告があった。
- ・令和4年度地域リハビリテーション活動支援に関する全国担当者会議の参加者を樋渡理事に決定した。
- ・令和4年度障害福祉（福祉事業所・小児医療療育施設）担当者連絡協議会の参加者を松永理事および平原理事に決定した。

1月（次ページまで）

- ・お問い合わせフォームに関して協議され承認された。
- ・令和4年度 保険者機能強化支援事業に関わる専門職アドバイザー派遣（十島村）について報告があった。
- ・2022年度地域リハ活動支援に関する担当者会議について報告があった。
- ・お達者くらぶについて活動報告があった。
- ・研修会ホームページ掲載について報告があった。
- ・役員選挙についてホームページに掲載した。
- ・令和5年度 鹿児島県言語聴覚士会 特別講演の概要について協議され承認された。
- ・小児研修会進捗状況が報告された。
- ・第22回新人教育研修会の進捗状況について報告があった。
- ・令和4年度下半期生涯学習基礎講座の進捗状況について報告された。

1月

- ・令和4年度鹿児島市口腔保健連絡協議会について参加報告があった。
- ・北薩・大隅地区合同 生涯学習プログラムポイント取得対象研修会の進捗状況について報告された。
- ・災害対策部より桜島火山爆発総合防災訓練参加報告があった。
- ・鹿児島訪問リハ研究会にてステップアップ研修会の進捗状況が報告された。
- ・失語症支援者養成委員会について活動状況の報告があった。
- ・九州地区学術集会鹿児島大会準備委員会について報告があった。

2月

- ・teams無料終了に伴う有料契約に関して協議され承認された。
- ・選挙管理委員会より監事2名の推薦依頼があり、東氏（鹿児島第一医療リハビリ専門学校）および濱崎氏（ひさまつクリニック）を推薦することとした。
- ・令和4年度 保険者機能強化支援事業に関わる専門職アドバイザー派遣（十島村）について島内の状況等の報告があった。
- ・2022年度地域リハ活動支援に関する担当者会議について参加報告があった。
- ・お達者くらぶについて活動報告があった。
- ・研修会ホームページ掲載について報告があった。
- ・県土会ニュースについて報告された。
- ・令和5年度 鹿児島県言語聴覚士会学術講習会について進捗状況が報告された。
- ・小児研修会について進捗状況が報告された
- ・小児研修会進捗状況が報告された。
- ・第22回新人教育研修会の進捗状況について報告があった。
- ・LINEの配信頻度について協議されアンケートを実施することとした。
- ・失語・認知・高次脳機能部会主催研修会の進捗状況が報告された。
- ・第2回失語・認知・高次脳機能部会主催研修会を予定している旨報告があった。
- ・始良霧島地区勉強会・交流会企画について報告があった。
- ・来年度予算案について協議された。
- ・失語症支援者養成委員会について活動状況の報告があった。

2月理事会承認分まで

事務局 松尾康弘

地域局（始良霧島地区担当）

私が地域局の理事に就任してから、3年が経過しました。この3年は、コロナウイルス感染症が広がった時期とほとんど重なります。私が理事になってから、ほとんどの研修会は、オンラインやハイブリッドなど、これまで経験したことのなかった新しい形で開催されるようになりました。オンラインの強みは、なんといっても、低コストで全国のさまざまな研修会に参加できること、と言えるでしょう。皆様のなかには「今後もオンラインでいいんじゃない？」と思っている方も結構いらっしゃるのではないでしょうか。

実際私も、オンラインとなったおかげで。これまであまり参加することのできなかった研修会へ参加できるようになり、全国のたくさんの方々とお話する機会をいただき、大変ありがたいご縁にもつながりました。しかし、言わずもがなではありませんが、やはりオンラインだと、研修会場の臨場感、空気感、熱気というものは、十分には伝わりません。そのことが、先日（2023/2/26）現地開催された失語・認知・高次脳機能部会主催の研修会で、はっきりと分かりました。

講師を務められた小嶋先生が、失語症臨床の集大成ともいえる素晴らしいお話をご講話くださった、ということが大きいのですが、現地開催であったからこそ、失語症臨床やST教育に対する先生の熱意が会場全体へ伝わったのだと思います。きっと、先日の研修会に参加された方は、この私の文章を読んで、「うん、うん」とうなづかれていることでしょう（と願います）。とにかく、やっぱりライブもいいですね。今後の地域局の活動におきましても、オンラインと対面形式をうまく使い分けて、会員の皆さまのニーズにお応えできるよう努めてまいります。

さて、今年地域局にとって目玉の動きは、公式LINEアカウントを導入したことでした。導入にあたっては、地域局のメンバーで半年間、オンラインやメールで議論を重ねた上で、皆さまへのご案内に至りました。現在の登録者数は、300人を超えた程度です。県士会には500人以上正会員が所属しておりますので、まだまだ登録が追いついておりません。今後の県士会からのご案内は、公式LINEアカウント一本に移行する予定です。もし、まだ登録がお済みでない方、またはお近くにお済みでない方がいらっしゃいましたら、ぜひともご登録いただけますと幸いです。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



始良霧島地区担当理事
有川瑛人

社会局（公共事業・保険担当）

今年度、鹿児島県介護実習普及センター主催の介護研修会は、予定の9回全て開催する事ができました。2022年7月では鹿児島県においても新型コロナウイルス感染が拡大し、1ヶ所延期がありましたが、行政職員、参加者のご協力と感染症対策の徹底を図り、無事に終了する事ができました。

保険関連では、診療・報酬に関する問い合わせはございませんでした。令和4年度の診療報酬改定においては、「早期離床・リハビリテーション加算における職種要件の見直し(言語聴覚士の追加)」、「摂食嚥下支援加算の見直し」、「疾患別リハビリテーション料の見直し(月に1回以上機能自立度評価FIMの測定している事を要件化)」、「リハビリテーション実施計画書の署名欄の取り扱いの見直し」といった変更がありました。診療報酬・介護報酬に関しましては、複雑な内容の問い合わせの場合、安易に答えられないため日本言語聴覚士協会に問い合わせてもらふこととなりますが、疑問を持たれた点を県士会全体で共有するためにも、まずは気軽に県士会に問い合わせていただきたいと思います。

日本言語聴覚士協会お問合せフォーム:<http://www.jaslht.or.jp/form.html>

公益社団法人 鹿児島県済会 南風病院
リハビリテーション科 樋渡 健太郎

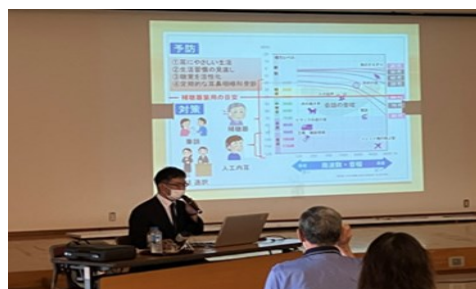
TEL:099-226-9111 FAX:099-805-2509



社会局（地域リハ・広域担当）

今年度より行政や他団体からの地域リハビリテーション関連の相談や依頼に関して、早急に対応できる部署として、社会局 地域リハ・広域担当が新設されました。2022年9月25日（日）地域リハビリテーション活動支援推進のための人材育成事業 初期研修（zoomを使用し、各自宅で学習）が開催され、9名参加しました。

地域リハ活動における講師派遣の活動も行っており、11月24日（木）、喜界島の地域住民を対象に「言語聴覚士から耳よりな情報～難聴と補聴器、認知機能低下予防について～」をテーマにお話しました。ちなみに、喜界島はSTがない地域になります。地域の状況として、補聴器を取り扱っている店舗がなく、耳鼻咽喉科の標榜のある病院は1ヶ所です。さらに月一回診察のみで予約だけでも数ヶ月待ちの状況です。この耳鼻咽喉科の診察の際には、九州リオン株式会社の職員も同行し、医師からの指示にて補聴器装用について評価を行っているようです。これまで補聴器を2・3個購入したが合わず、現在使用していない参加者もいました。そこで、講義では認定補聴器技能者の存在と、喜界島から近い奄美大島に認定補聴器技能者が在籍している店舗を紹介しました。私自身も以前より九州リオン株式会社の職員を知っていた経緯もあり、引き続き、補聴器支援と、行政との連携についてアドバイスを行いました。離島のように言語聴覚士がない地域では、地域の実情も踏まえた発言や社会資源の発掘について一緒に考える事も大切だと思います。



今後も地域包括ケアシステムの構築に向け、市町村が介護予防の為、地域ケア個別会議や介護予防講座などを開催し、多職種協働による自立支援・重度化防止や地域課題解決に向けて推進していく事が予想されます。会員の皆様には、地域における医療の状況や社会資源の把握など、患者の退院後の生活や周辺環境を知る事で、さらに臨床の幅が広がると思います。地域リハビリテーションに興味を持ち、地域に貢献したい方は是非、鹿児島県言語聴覚士会主催の「初期研修」、鹿児島県理学療法士・作業療法士・言語聴覚士連絡協議会が主催する「介護予防推進リーダー研修」・「地域ケア会議推進リーダー研修」に参加し、地域のリハ活動に一人でも多く賛同・参画して頂けると幸いです。

公益社団法人鹿児島県済会 南風病院
リハビリテーション科 樋渡 健太郎

TEL:099-226-9111 FAX:099-805-2509

社会局（地域リハ・鹿児島市担当）

現在、POS連絡協議会の活動の一環で、地域リハビリテーション支援活動（お達者クラブへの講師派遣）を実施しております。まだまだ講師の希望者が少なく、講師をしていただける方を募集しております。活動に際して社会局が行っております研修の履修が必須となっておりますので興味のある方がいらっしゃいましたらご連絡下さい。

鹿児島市医師会病院
瑞穂 哲也



社会局（広報担当）

広報局では、令和4年度、3年ぶりに言語聴覚の日のイベント（「ことばの相談会」）をイオン鹿児島にて実施することが出来ました。久しぶりに開催出来、広報局一同、サポートして下さった会員の方と喜べたことが一番記憶にある所になります。

新型コロナウイルスも感染拡大の勢いが少しずつ収まってきました。また、マスク着用の規制を緩和の流れになってきております。こうした動きに伴い、私たちが生活する社会も変化してきていますが、自分自身や周囲の人たちの健康を守るためには、感染拡大防止の基本的なルールを守りながら、手洗いやアルコール消毒、咳エチケットなど、これまでと同様の予防対策を行っていききたいと思います。

さて、コロナ禍で増えたオンライン研修だけでなく、最近ではハイブリッド開催や対面開催の研修会の案内も増えてきております。会員の皆さんは県士会LINEやホームページを通してご確認ください。また、研修会だけでなく、求人案内や、研究・調査協力（原則、各施設での倫理審査通過後に限り）を会員の方は行うことも出来ます。そちらに関してもぜひご活用いただければ幸いです。

今後もホームページやニューズペーパーを通じて、会員の皆様へスムーズで有意義な案内に繋げていきたいと考えております。ご協力の程どうぞよろしくお願いいたします。

鹿児島医療技術専門学校
言語聴覚療法学科 小牧 祥太郎

Tel 099-261-6161 Fax 099-262-5252



学術局 (新人教育)

令和5年2月12日、第22回新人教育研修会を実施しました。
今回は「言語聴覚士としての自己啓発」をテーマに、菊野病院言語聴覚士の池上敏幸氏にご講演いただきました。

池上氏は鹿児島県言語聴覚士会の前会長を務められ、現在の鹿児島県言語聴覚士会の礎を築いてこられた言語聴覚士です。

退任後も様々な場所・領域でご活躍されており、現任理事の私たちも言語聴覚士の「いろは」をたくさん学ばせていただきました。今回の講演も経験豊富な池上氏ならではの様々な視点から、根拠をもって患者様に向き合うことの重要性や研究への取り組み方、言語聴覚士として私たちの存在価値を熱く、そして楽しく伝えていただきました。若手STはもちろん、中堅以上の県士会員も参加していたことが、印象的でした。

参加した若手STにとっては今後の道しるべとなり、中堅以上のSTにとってはこれまでの自身を振り返り、改めて身の引き締まる思いのする内容だったのではないのでしょうか。

様々な評価方法や治療手技を学ぶことも大切ですが、言語聴覚士として患者様とどう向き合うべきか、そんな内容の研修も大切ですね。今後も、知識的な内容はもちろんですが、経験やこれまでの自身を振り返る機会となるような研修会も企画していきたいと思います。

新型コロナウイルス感染症との向き合い方もだいぶ落ち着いてきました。今後も必要な感染対策は講じながら、オンラインだけでなく、対面で学べる機会も再開していきたいと考えています。

皆さんの貴重なご意見やご要望を、どしどしお寄せください！！よろしくお願いいたします。

【お問い合わせ・ご要望】

yishihara@yonemorihp.jp

鹿児島県言語聴覚士会学術局
新人教育担当 石原あて



学術局 (生涯学習)

平素より鹿児島県言語聴覚士会の活動にご参加・ご協力頂き、誠にありがとうございます。

令和4年9月11日(日)は基礎講座5『協会の役割と機構』、基礎講座6『研究法序論』を講師に学校法人原田学園 鹿児島医療技術専門学校の松尾康弘氏をお招きし、ハイブリッド開催(現地+WEB)致しました。

基礎講座5では29名、基礎講座6では31名が県内外から参加して頂きました。基礎講座5では日本協会の動向等、新たに知れたことも多く、貴重な経験となりました。基礎講座6では研究について興味がある方や論文抄読で困っている方は是非聞いて頂きたい内容でした。

また、令和5年2月12日(日)は基礎講座1『臨床のマネージメントと職業倫理』、基礎講座2『臨床業務のあり方、進め方』を講師に株式会社L-hisの西野将太氏をお招きし、ハイブリッド開催(現地+WEB)致しました。次回号で結果等の報告をさせて頂けたらと思います。

話は変わりますが、教育について考えることが私自身多くなってきました。皆さんの施設では卒後教育はどのようにされているのでしょうか？この生涯学習基礎講座は学びの第一歩になるものと思います。県士会の研修参加を施設でも積極的に行っていくようにできればと願うばかりです。

これからの教育体系やZ世代への新人教育、中堅教育での自律性、変化適応、創造についての大切さ等、いつもでも学びは大事ですね。

いちき串木野市医師会立脳神経外科センター
リハビリテーション部 尾崎 幸平

TEL : 0993-32-9999 FAX : 0996-32-0496

学術局 (成人)

あるカンファレンスに参加した際、医師が「この〇〇は、△△によるものであり、□□学的には矛盾しないと考えます。」と表現されていた。(〇には症状(反応)、△には病巣(状況)、□には学問(考え方)が入ります。)当時、この医師のように私が行なっている評価やアプローチについて他人から尋ねられた時、理路整然と説明できるのだろうか?と自分に問い、蓋をしたくなる思いがしたことを鮮明に記憶しています。恥ずかしながら・・・苦い記憶の自験例は枚挙にいとまがなく、適切な評価が十分に行えておらず、上司に「それ、調べたの?」と聞かれる度に冷や汗をかいていたことが思い返されます。恐らく、見透かされていたのだと思います。今でも知らないことの方が多く、本当に分かっていることは極わずかであることにあまり変わりはないのですが・・・

多種多様な疾患や診断を受けた方々を目の前にした時、評価法や治療の選択肢について介入の拠り所となるのが「ガイドライン」です。右も左も分からない時、今、欲しい答えの全てが記載されているわけではありませんが、臨床を行う上でスタートラインに立たせてくれますし、目の前の方に不利益が生じないように適切な方向へと導いてくれます。

適切な評価・治療方法を選択した後、既成の評価や観察によって得られた行動指標の結果から、臨床的な介入の効果を主観・客観的に示す方法が「事例報告」です。さらに、介入前後の外部の要因(交絡要因)の影響を排除して、直接的な介入の効果とその因果関係を実証する方法が「事例研究」になります。また、介入効果判定を行う上で「臨床的に意義のある最小変化量Minimal clinically important difference: MCID」という用語を目(耳)にする機会も増えてきているように思います。

自験例をまとめる作業の中で私が実感することは「臨床能力の向上」です。学会発表用スライド作成や論文投稿の過程の中では、客観的な事実の検証と根拠を基にした論理的思考の繰り返しが求められます。当事者やご家族からのちょっとした問いに対し、客観的な事実と先行研究から得られた知見を用いてご説明することで、いくらか自信をもって対応できる機会が増えてきているような気がしています。学生時代に思い描いたST像・・・少しでもSTとして誇らしくいられるように「怠慢はないのか?」と自分に問うと、背中の辺りがゾワゾワしてくるのは私だけでしょうか?

学術局 成人学術担当
鹿児島大学病院 小倉道広

学術局 (小児)

2023年が始まり3ヶ月が過ぎましたが、新年に誓った目標や計画は達成できたでしょうか？または順調でしょうか？私個人の目標ですが、... 目標だけは高く立てましたが、「時間がなかった」、「タイミングが」、「まだ大丈夫！」と都合の良いように言い訳をしながら全然進んでおりません... (反省)

小児学術局としての事業においては、会員の皆様のご協力の元、学術講習会の開催や小児発達ネットワークのLINEグループを活用した、小児に関する情報共有や案内、また3月26日に開催予定の小児研修会など事業を進めることができ大変感謝しております。

一方、学校教育向けの紹介用リーフレット作成については、検討事項や議題も多く進んでおらず、ご迷惑をおかけしておりますが、昨年12月に日本言語聴覚士協会より「学校教育リーフレット」が作成され、ダウンロードできるようになっていますので、教育機関や行政の方々と話をされる際や説明の時などに是非活用下さい。

また、今年の2月には、協会から「言語聴覚士のための乳幼児健診入門ガイド」も発刊されました。小児に携わる会員の方も増え、益々活躍する場も拡がり嬉しく思うと同時に、実際の現場で不安や緊張、どう対応したらよいか迷う方々も少なくないかと思います。そのような時に、健診の概要からSTとしての立場、チームとしての役割など優しく分かりやすく説明されていますので、こちらもぜひご活用下さい。

ベテランの方から新人の方、またあまり小児に接する機会がない方々にとっても読みやすいガイドブックになっていると思います。こちらもダウンロードが可能ですので、ぜひダウンロードされてみてください。

令和4年度の活動も残り少なくなりましたが、引き続き令和5年度においても、研修会等を企画、計画していますので、皆様のご参加をお待ちしています！

鹿児島県言語聴覚士会 小児学術局担当 松永

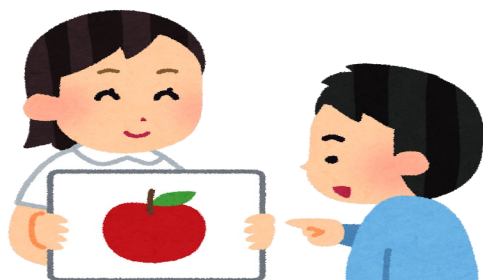
財務局

会員各位

平素より県土会活動にご協力賜りありがとうございます。
財務局担当 無所属 鎮守美和です。

会費納入にもご協力頂きましてありがとうございます。
まだ口座登録がお済みでない会員の方はできるだけ口座登録をしていただきますようよろしくお願い申し上げます。

会費についてご不明な点がある方、口座登録用紙が必要な方は財務局メールアドレスまでご連絡ください。対応させていただきます。



財務局メールアドレス
kago_st@yahoo.co.jp
担当 鎮守美和

☆編集男紙☆

平素より大変お世話になっております。新型コロナウイルスが巷で話題になってから、およそ3年が経過いたしました。皆様どの様に過ごされましたでしょうか。コロナウイルス自体はワクチンや行動制限等を経て、現在急速に収束傾向にあり、5類感染症への見直しも間近となりました。国内外問わず渡航ができない。実家に帰る事ができない。職場や友人との会食ができない。学校行事ができない。などなど、、、多くの制限を余儀なくされ、貴重な時間や何事にも代えがたい体験等を奪われた様に感じており、忘れてはいけない3年となりました。しかし、その反面「この3年間で得られた物も多いのではないかと」、考えるようになりました。特に「オンライン」これは画期的且つ、先鋭的で、様々な可能性を感じています（私が見えているのは氷山の一角でしょう）。今まで参加できなかった学会等に参加でき、学びも多く充実しておりました。今後はオフラインとの融合により、どのように発展を遂げるか非常に楽しみにしております。やっぱり、現地の食べ物や酒、人と話し、空気を感じるのも醍醐味ですよね？ 以上、乱文にお付き合いいただき、ありがとうございました。末筆ながら令和5年度も皆様にとって幸多き1年でありますよう、お祈り申し上げます。